

【概要】

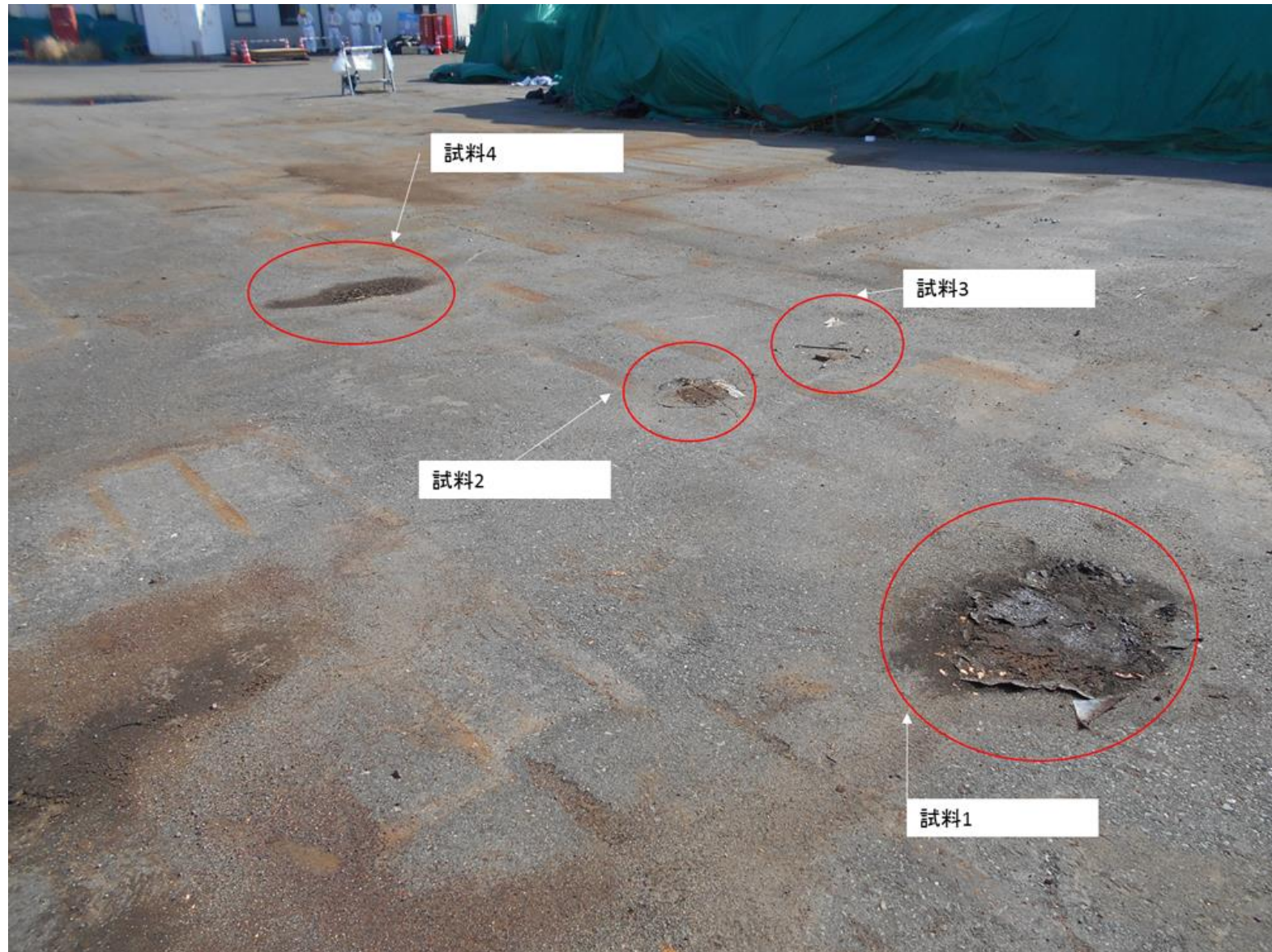
- 2021年3月2日に物揚場排水路に設置している簡易放射線検知器（以下「PSFモニタ」）に高警報が発生した原因について、継続的に調査しておりますが、当該排水路上流にある「一時保管エリアW2」付近の排水溝に流れる雨水（3月21日採取分）を分析した結果、セシウム134が検出限界値未満（検出限界値3.5～3.6Bq/L）、セシウム137が6.1～9.4Bq/L、全ベータが $1.6 \times 10^3 \sim 1.7 \times 10^3$ Bq/Lであり、全ベータの値が高いことを3月22日に確認しました。
- 当該排水溝雨水の全ベータ値が高い原因を調査する観点から、一時保管エリアW2の地表面（土やアスファルト等）の線量率を調査したところ、ベータ線の値が高い地点（最大5m Sv/h）があることを 3月22日に確認しました。
- また、3月22日、一時保管エリアW2の地表面上において、ベータ線の値が高いゲル状の塊が確認されたことから、3月24日に当該のゲル状の塊や一時保管エリアW2のベータ線の値が高い地点の土を回収した上で、周辺の地表面上へ除染材（塗膜剥離型除染材）の塗布、シート養生、および土のう設置を実施しております。 <3月24日お知らせ済>
- 当該のゲル状の塊（土と混在したもの）や周辺地表にあった土を分析した結果、ゲル状の塊においては、セシウム134が 2.9×10^1 Bq/g、セシウム137が 9.0×10^2 Bq/g、全ベータが 2.3×10^5 Bq/gであることを確認しました。
- 今後、本分析結果や3月2日に当該エリアから撤去したコンテナの内容物確認および、ゲル状の塊の成分分析を引き続き実施するとともに、当該排水路のサンプリング結果等からPSFモニタ高警報が発生した原因を調査してまいります。
- 引き続き、当該排水路における放射能濃度の監視を継続してまいります。

【参考】 試料毎の分析結果

【単位 : Bq/g】

試料名	採取日時	セシウム 134	セシウム 137	全ベータ 放射能
試料 1 (ゲル状のものと混在した土)	3/22 16:30	2.9E+1	9.0E+2	2.3E+5
試料 2 (土)	3/24 15:35	2.1E+1	4.9E+2	2.4E+4
試料 3 (土)	3/24 15:40	2.7E+1	5.8E+2	6.4E+3
試料 4 (土)	3/24 15:31	8.2E+1	1.9E+3	4.7E+4

【参考】 試料毎の位置関係



【参考】 試料回収等の対応状況

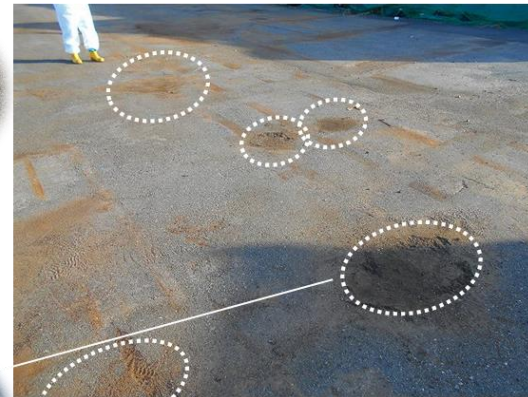
3月24日、ゲル状の塊（ゲル状のものと混在した土）や周辺の土を回収した上で、周辺の地表面上へ除染材（塗膜剥離型除染材）の塗布、シート養生、および土のう設置を実施しております。

今後、準備が整い次第、アスファルトのはつりなどを行い、除染してまいります。

①除去前



②除去後



③除去跡への剥離剤塗布



④除去跡の養生

